

俺は郵便屋

田中康原詩
東京郵便合唱団作詩・作曲

J=98

小ぶとを はこぶ こぶをはこぶー

ロマンを はこぶ おはゆうびん 屋ー

ごろうさ まの ひここにー

つがれもれ すれて こぶがなごむー

カバンこん個にじんしんがら はしれいそげま かけまわれ はがきもさっやちまーりないー 小ぶらカバンにおまこめ

いっせあせたく おはゆうびん 屋ー おはゆうびん ハイゼールースの

屋ー

地球へのラブレター (仮題)

～高校生の平和宣言より

てがみがついたおは そよ かげがまぶしいひとー きた (いく) こもーのがまらちが とど いたー地球のラブレター ぼく

のくにーあなたーまたみぬーあなたーなにーいのー ひろびしょうー おい のこころにしみこみほくをーうごかす あついはれの マッセージーー ぼく

をこめて みる いそー かりてき つないでーゆこうと よび はあな じほしにー すんどうあな じせがいにいそー する いっ

かけーたのはたし か ぎねんのあき わか がーあえ記がある と しんじている

い こぶがーあな じなら いの ちのーとこどーあな じなら へい

わがーなにーよりーだい じなーこもきーとさーとあな じです いく

こえあわせー うたおうみらいの ためにー

このほしからー かくへいさを なくしましうー



*今回は、88年日本のうたごえ
創作講習会での集団創作による
作品から、集めました。

花の子どもたち

小林勝子原詞

さくらの はなの こどもたちー
なーのはなの こどもたちー
はーはなの こども どのこどもー

えだいーほいにかたならべてー
かせにゆれーてほほせあてー
はるのひざしに たわむれながらー

かけてあそぶ こどもたちー
あそびはじめた こどもたちー
そらを見あげ せのびしてー

みつめて はるだよと わらってー
ほほえみながーらささやいてー
あそびく なるよと うたってー

うすもいろーのはるがわらてるー
さいろいさいろい はるがほほえてるー
あーおーいーおーいー そらにうたてるー

おさないいのちがひかーているー

勤続25周年

石川、燃脇原詩
保母理英子、山崎美幸、林秀作曲

(2.3.4)

1 あこがれあけぬ くらしみち こぶ色のこして いそをさる
2 だれにさすけぬ 朝日ごこ けうせうけてる ひろびしょう
3 すずめのわがわが あくる日に こぶごこくまじり 手わたこぶ
4 木っけでまわぬい びんぼうが ほんばのなまに うたえる
5 あこがれあけぬ くらしみち さようめわたしは いそをさる

小川もふりもた かぶまがり およいつづけたにじゅうごねん
ながーいろうが むくわれで さらえた昔のどとあつてた
つまぶきふらつきりやカー 色 びいてはあちるーくやしけだ
はあーくあえて 華々しく きたがいわたしのあかさんに
まえむもねはり) かぶまがり がせーにえがあそ ちてある



愛するもののために

小森香子作詞

J=88-92

あ い やまのすけ れ そよぐ はなみずき アカ
いのちかけたこぶ ち あそ 色のこむこみ 小れ
あ い いのちのほし うみよ やまよかめよ よび

ゴッーあそぶし ま しろう いさんーごしろう
あつたーふたりの て おい た ちちーやは は
あつたへいわのな み てわ たす ヒロシマの ひ

あ い するもの の た め に あ い するもの の た め に い

ま わした ち てを つなぐーごーき
たち あがーるーごーき
いのちーかがやくと き



タタミの上が極楽や

京野イルカ

1. ワシ は ちやう はーいぞー ーいーはーは
2. しし ーいーはーは ーいーはーは
3. けし ーいーはーは ーいーはーは
4. けし ーいーはーは ーいーはーは
5. けし ーいーはーは ーいーはーは

し かせまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
きこくまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは

あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは

あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは
あそびまのーいーはーは ーいーはーは ーいーはーは

お母さん

林正美作詩
88創作講習会2-5班作曲

ぼくは いま十 八歳 ぼくは まだあかあ
ぼくは いま十 八歳 ぼくは まだあかあ

さん と さんだことばない てもあしと
さんの がーあもしらな い てもておれ

さくだけて すぐに わかーる やさしいやさ
水ーはーそこに あーる やわらかいあ

しい おかあさん
たかい おかあさん (J.J)

育ついのちを

滝いく子 作詩

1. ぼんぼんおきな 二でほろ
2. なんせきせきな 笑みせし
3. かわらぬせんしん ざしたして

からかい ばい ちからこめ 泣いてなにかえ ったえる
つがれくるしさとちちうほえて しあわせと せきしめる
こんなにんじんあんしんし ずしりとみらい あすけてる

あなたいすず があかさん ほん どのゆがい つたえます }この
あなたいよて どうさん ほん うちから けきがある }
あなたいまもり わしたち ほん なくとてり たちむかう } (J)

せにいのちが とだつ のとを ますし

とこべつ せんとうが ぞえ

さるーこを ゆるし ません

ん いのちが ゆたかに そだつ の

え さえさるー ちのを ゆるし ませ

ん ゆるし ません

不毛の地から

大江 将精(詩人)

幸せの
不毛の地から立ちあがる
石をたたき 土をおこし
大地を培って来た
種をまき 苗を育て
汗を流して来た
夢に見るは 明日の色
春つらん 花の色

幸せの
不毛の地から立ちあがる
うたをつくり うたをうたい
この手をつないで来た
機嫌は 蝶のように
汗を流して来た
わがごとくは ただ一つ
核のなき 明日の色

幸せの
不毛の地から立ちあがる
石をたたき 土をおこし
汗はふいてあるから
ガラス窓 両手であけて
今日も元気でゆめを
夢に見るは 花の色
春つらん 明日の色

修君が笑ったヨー!

山本美佐子

暗く静まる夜中の三時
おむつを穿てる手を止めおむつを
じっとわたしをみつめてた
修君がニコッと笑った

喘息の発作で息が止まって、人工呼吸器で息をするようになった修君
意識がなくなり、器械につながれた修君
お父さんが、お母さんが、いくらよんでも
こたえてくれない修君

百二十日もベットで動かない修君
手も足ものびきって曲げること出来な
くてもくもく目も睨みかけた私達
でもあつはびこたえんくれなかつた修君
ねじがまった暗さみの中で
修君が可愛く笑った

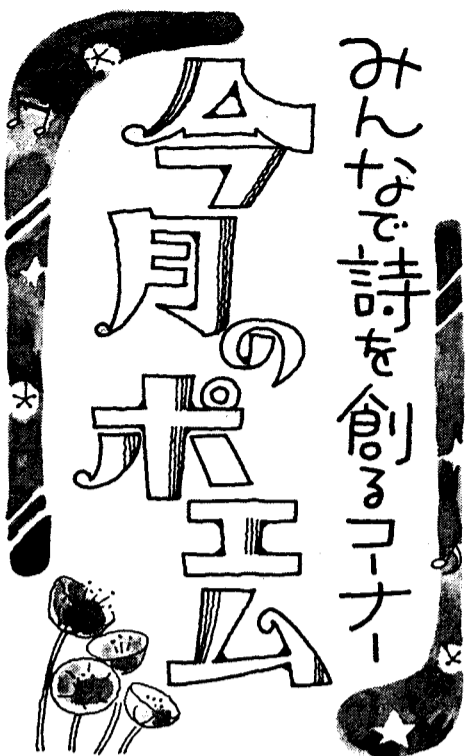
人間の詩

門倉 誠(詩人)

人は人を信じ
人は人を信じ
生きていくものだから
たぶん うつろい
たぶん いびき
どなたかにあまじいひびきも
かおをあげて あお空をひびいて
人間のしく生きていく
人間として 人間だから
人を 信じて生きていく

人は人を愛し
人は人を愛しあふ
生きていくものだから
たぶん かなしいとも

* 88創作講習会より



たとえ 傷ついても
どんなにうらまされても
むねをはって 太陽をひびきして
人間らしく生きていく
人間として 人間だから
人を愛して生きていく

おかあさん

井上 泰延

春をさがして 冬に生き
夏を燃やしてやがて秋
たった一度の人生だから
人間として 人間らしく
人を愛して生きていく



うたごえ四〇周年に

よせて

永井 和子(詩人)

一、みんなの歌が
みんなの願いが
雪をたかして 大地に春を
あたたかな春をよびもすたらう
花は 花は どんなに小さな草にも
花は 花は うたごえの花は
わたしたちがうたごえの花は
咲きはじまる

二、世界の歌が
世界の願いが
核をなくして 地球に春を
ほんとうの春をつくりだすたう
春は 春は かならずかえりてくるはれど
春は 春は 平和の春は
わたしたちがあるいてゆかぬは
やうになら

袖を とおします
※ かあさん かあさん
春には 帰ります
書きかけの 夢置いて
こいし思いが 北飛行

田んぼで遊ぶ 私をいつでも
向かえに来てた おかあさん
どっこい まみれた
からだ 落ちてくれた
かあさん かあさん
きつと 帰ります
書きかけの 夢置いて
お土産話し 持って

魚たち

来栖美津子(詩人)

海は浅瀬の 養魚場
群れる魚は 同じ向き
くまのくまの 同じ向き
同じ種類の魚たち

ここは魚の学校
波も寄せる君たちの海
のがれられない君たちの世界
完全栄養 完全管理
ハイオの力に助けられ
大きくなれ えろくなれ
ワカシ イナダ フラサ フリ
いりわられた階級で
名前も違う出世魚
荒海は知らない魚たち
脂で太った魚たち

火の涙

小森 香子(詩人)

あの八月の朝 生まれました
いまわしい殺りへの炎となった わたし
何日も 広島地下室で 屍のかけに
ちろちろと 燃えていた わたし
悲しみと怒りと やさしさの手に ひろわれ
遠く死者の故郷(ふるさと)で 祈りの灯と
なりました

妻も教師です

佐山 幹夫

一、担任が男で 良かったな
決して 言わないで欲しいのです。
私の妻も 教師です。
家事に専らへ暇もな
子供達かして 答案の丸つけ
本当に 良かっています。

うたごえは四十年

佐伯 洋(詩人)

一、みどりに明える 森のように
うたごえは仲間を愛されてきた
ああ(わたしは)美しい森
うたごえは四十年
仲間ととも歩んできた
うたごえは ことをむすぶ
ひろがれ うたごえ
すべての人の くらにこぼれ
二、夜空にまたたけ 星のまじり
うたごえは夜空に輝いてきた
ああ(わたしは)美しい星

胸の中からレールが続く

山口裕康、船津広実作詞
合唱団狩野創作会議作曲



うたごえは四十年
ねがいをむすび輝いてきた
うたごえは 未来をひろへ
ひろがれ うたごえ
すべての人の ねがいにこぼれ
三、大地を流れる川のように
うたごえは大地をうろおして来た
ああ(わたしは)美しい川
うたごえは四十年
平和の道をひろげて来た
うたごえは 平和のちかひ
ひろがれ うたごえ
すべての人の いのちをこぼれ

緑の地球

十三与太郎

生きているとは 心にこころですか
やさしい心を ののこころですか
心構えは 武器を作る
その力を 確かめることですか
人と人の愛に くさび打つように

限られた 石油であるならば
鉄やなまりや ウランであるならば
平和を守るに 武器を作る
緑の地球 壊さぬすわけですか
生きているすくすくを 消すものですか
信じて 本当は
人はみな やさしい心があるのだと
人はみな 弱い心を持ちながら
そんな弱さを ののこころと
寄せるべき 持つのだと
それが やさしい心だと
血められた 海を大地を
もう見せないで 燃えつくすのは武器
美しい命 抱きしめたいから
緑の地球 よみがえらせよう
人と人の愛よ 世界を駆けぬぐ
はてしなく 無限の手ゆ
そのかたすみに 地球はあるの
チップケな星だから 輝かせたい
寄せる心を 娘よ戻す
人と人の愛よ 世界を駆けぬぐ
心のかき・ね
小川 弘美
車いすの私
家の中では
みんなと同じって
思ってた
周りの人達
「あなたは何もできないから
迷惑かかるのよ」って
その時
私も
思ったの
かきねがあるんだって
なぜか 思うようになった
だげと……
仲間が教えてくれた
「みんなの中には
もっと自由がいんじゃない？」
精一杯の心で
かきねをこぼして
いっしょに
高く
丘に登って行かむ